

清瀬 高等学校 令和7年度（2 学年用） 教科 公民 科目 公共

教科： 公民 科目： 公共 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 7 組

教科担当者： （ 伊東 ）

使用教科書： 公共（東京書籍）

教科 公共 の目標

- 【知識及び技能】 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料が、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用し、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養います。
- 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や公共的な空間に生き国民主権をになう公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

科目 公共 の目標	
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けます。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	よりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される。現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権をになう公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
	公共的な空間をつくる私たち—社会のなかの自己 ○青年期の特徴と発達課題、及び個人・社会・伝統と文化の視点から人間のあり方について理解するとともに、自己形成及び社会形成に主体的に参画することの意義について考察する。	○青年期における心の動きや自分自身の捉え方、人間関係などの特徴をふり振り返りながら、青年期の特徴や発達課題について理解します。 ○現代社会で生きていく上で、青年期に求められることは何か、幅広く考えるとともに、キャリア開発や社会参画の意義について気付き、考えます。 ○規則と自由に関する課題について、カントの義務論やJ. S. ミルの自由論を手がかりに、実際の場面を想定しながら、理解を深めます。 ○パターナリズムの例を用いて、規制と自由の関係について考えます。 ○日常的に用いられる「公共」の意味について考えながら、アーレントやハーバーマス、和辻哲郎の捉えた社会的存在としての人間に	【知識・技能】 ・青年期の特徴と自己形成の課題、個人・社会・伝統と文化の三つの視点から捉えた人間のあり方について理解する。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・青年期の特徴と自己形成の課題、個人・社会・伝統と文化の三つの視点から捉えた人間のあり方について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・青年期の特徴と自己形成の課題、個人・社会・伝統と文化の三つの視点から捉えた人間のあり方について、自分自身の課題としても捉え、主体的に追究している。	○	○	○	5
	公共的な空間における人間としての在り方生き方—共に生きるための倫理 ○現代の諸課題について判断し選択する際の考え方としての功利主義と幸福の原理や義務論と公正の原理を理解する。 ○生命倫理や環境倫理にかかわる課題について、功利主義や義務論の視点から考察し議論する。 公共的な空間における基本的原理—	○行為の判断や選択の場面を想定し、まず目的論と義務論の区別について理解します。 ○功利主義の快樂や幸福の考え方が、社会のあり方と関連していていることを、経済や福祉政策などを事例に理解します。 ○人間にとっての善さや幸福を、人が徳を備えることに求める考え方を理解します。 ○思考実験を用いて選択・判断とその理由について考察します。 ○結果ではなく義務に基づいて行動すべきとする場面を想定しながら	【知識・技能】 ・現代の諸課題について判断し選択する際の手がかりとなる功利主義や義務論などの考え方について理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている ・公共的な空間における基本的原理である民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義について理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。				

1 学期	私たちの民主的な社会	ら、カントの考え方を理解します。 ○社会的公正の是正について、社会保障政策などを手がかりにロールズやセンの考え方を理解します。 ○思考実験を用いて選択・判断とその理由について考察します。 ○エンハンスメントの事例をあげながら、そこにどのような倫理的課題があるかを理解します。 ○すでに学んだ功利主義と義務論の考え方を手がかりに倫理的課題について考察・判断します。 ○開発にともなう倫理的課題とはどのようなものかを理解します。 ○すでに学んだ功利主義と義務論の考え方を手がかりに、環境にかかわる倫理的課題について考察・判断します。 ○市場機構における財やサービスの配分が社会の利害調整の役割をしていることに気づきます。また、国家による調整は、立憲主義に基づく手続きによることを理解します。 ○民主主義の手続きや方法の意義について具体例をあげながら理解するとともに、その課題について考えます。 ○中学校社会科での学習もふまえながら、法の支配や立憲主義の意義について、基本的人権の尊重や経済の発展防止の観点から理解します。	【思考・判断・表現】 ・現代の諸課題について判断し選択する際の手がかりとなる功利主義や義務論などの考え方を活用して、生命倫理や環境倫理について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・公共的な空間における基本的原理である民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義とそれらを実現する上での課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・功利主義や義務論などの考え方を活用して、現代の諸課題について主体的に追究している。 ・公共的な空間における基本的原理である民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義とそれらを実現する上での課題について、主体的に追究している。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	民主政治と私たち	○国や地方の政治に民意を反映させる制度について、中学校までの既習事項などをおして理解します。 ○選挙による方法、国民投票による方法について、民意を反映させる点でどのような特徴や課題があるかを、考察します。 ○身近に存在する政治に気付くとともに、民主主義にかかわる制度や活動について理解します。 ○内閣と国会の関係については、日本国憲法の条文を参照すると同時に、実際の政治事象を参考に理解します。 ○行政機構と行政事務については、具体的な事例を参考に理解します。 ○行政権の役割の拡大に伴う諸課題と対応について具体例を取り上げながら考えます。 ○現代民主主義の課題については、20世紀の歴史をふまえながら考察します。 ○地方自治の本旨について確認すると同時に、国の政治と比較しながら地方自治のしくみについての理解します。 ○地方財政については、具体例などを取り上げながら、財政や事務について理解します。 ○三権分立、国会の組織と権限については、日本国憲法の該当条文も参照しながら、理解します。 ○実際の政治事象を取り上げながら、国会の果たしている役割について具体的に理解します。 ○内閣と国会の関係については、日本国憲法の条文を参照すると同時に、実際の政治事象を参考に理解します。 ○行政機構と行政事務については、具体的な事例を参考に理解します。 ○行政権の役割の拡大に伴う諸課題と対応について具体例を取り上げながら考えます。 ○近代の選挙の原則の重要性を確認するとともに、日本の選挙制度について、近年の実施例なども取り上げながら、具体的に理解します。 ○18歳から選挙権を有することをふまえ、投票による政治参加の意義に気付きます。 ○選挙の際の政党の政権公約、政党間の議論などを参考に、政党の役割に気付きます。 ○利益集団についても具体例をあげながら政治的意味に気付きます。	【知識・技能】 ・政治と民主主義、地方自治及び国会、内閣のしくみと役割、政治参加と選挙、政党と利益集団、メディアと世論について、民主政治の実現の観点から理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・政治と民主主義、地方自治及び国会、内閣のしくみと役割、政治参加と選挙、政党と利益集団、メディアと世論、政治のしくみや運用にかかわる課題について、民主政治の実現の観点から多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・政治と民主主義、地方自治及び国会、内閣のしくみと役割、政治参加と選挙、政党と利益集団、メディアと世論、政治のしくみや運用にかかわる課題について、民主政治の実現の観点から主体的に追究している。	○	○	○	8

	法の働きと私たち ○法や規範の意義と役割、法の成立と適用、市民生活における法と契約、消費者の権利と責任、司法のしくみと司法参加の意義などについて、実際の社会生活の事象とも関連させながら理解する。 ○法の意義と役割、消費者の権利と義務、司法参加などにかかわる課題について考察し表現する。	○法と道徳や慣習などの規範の特性については、規制する対象や範囲、効力などの点から比較し理解します。 ○公共的な空間において、道徳やマナーに委ねる場合と、法的ルールによっている場合があることについて、事例をあげて理解します。 ○法の特色、法の役割については、具体例をあげながら理解します。 ○社会法については、日本国憲法に定める社会権の規定との関連に気付きます。 ○民事裁判、刑事裁判に関する報道などを参考に、両者の手続きの特色について理解します。 ○法の解釈、判例については、実際の裁判事例をとおして理解し、関心を持ちます。 ○インターネットによる売買契約の特性や取り消しに関する情報、売買に関するトラブルの事例などから、インターネット販売について理解します。 ○身の回りの具体的な例を取り上げて、私法と私法の3原則、過失責任の原則について理解します。 ○日本国憲法の関連する規定も参照します。 ○売買契約、賃貸借契約、労働契約、消費貸借契約などについて、具体的な例を取り上げ、契約自由の原則の意義とその修正が必要な場合について考えます。 ○消費者問題の例を取り上げて、消費者契約や消費者法制、消費者支援機関の役割、消費者市民社会の形成について考えます。 ○裁判員として刑事裁判に参加することの意義と責任について考察	【知識・技能】 ・法や規範の意義と役割、法の成立と適用、市民生活における法と契約、消費者の権利と責任、司法のしくみと司法参加の意義などについて、理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・法や規範の意義と役割、法の成立と適用、市民生活における法と契約。消費者の権利と責任、司法のしくみと司法参加の意義などについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・法や規範の意義と役割、法の成立と適用、市民生活における法と契約。消費者の権利と責任、司法のしくみと司法参加の意義などについて、主体的に追究している。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
2学期	経済社会で生きる私たち ○経済活動の意義、経済循環、市場経済のしくみと政府の役割、国民所得と経済成長、金融のしくみと働き、中央銀行の役割と金融環境の変化、財政の働きと課題、社会保障の考え方と課題について、実際の社会生活の事象とも関連させながら理解する。 ○経済のしくみや動向についての基礎的理解を基礎に、経済についての政策、財政や金融に関する政策課題、社会保障にかかわる課題について関心を持って考察し追究する。	○希少性、機会費用、トレードオフについて、経済の特性を捉える基本概念であることに気付きます。 ○経済循環における経済主体間の関係には、市場を通じたものと、法令に基づく制度として行われるものがあることに気付きます。 ○価格の働きについては、需要曲線・供給曲線を利用して理解します。 ○外部不経済、寡占市場における資源配分のゆがみなどについては、具体的な事象を参照しながら理解します。 ○経済の大きさや動きなどを示す指標としてGDPがあること、また、豊かさを示す上でのGDPの限界にも気付きます。 ○経済成長率は、経済政策の目安となると同時に、各国の経済の動向を示す目安としても用いられていることに気付きます。 ○クラウドファンディングについては、いくつかの例をとおして理解します。 ○間接金融、直接金融とクラウドファンディングそれぞれの特色と違いを比較しながら理解します。 ○銀行や証券会社、保険会社などの具体的な金融機関の業務などを調べることをとおして、金融のしくみについて理解します。 ○金融政策については、市場における通貨量の調整がどのようにして図られるのか、そのしくみに着目して理解します。 ○金融の自由化、金融商品の多様化が、消費者にどのような利便性と課題をもたらしているか、具体的に考えます。 ○日本の財政規模、財政危機については、資料を参考に把握します。 ○＜歳出＞の削減、＜歳入＞の増加については、視野を広げて多面的・多角的に考察します。 ○所得の再分配や財政政策については、具体例をとおして理解します。 ○財政については、歳入構造、歳出構造の変化の背景に気付く、財政の動きに関心を持ちます。 ○租税の種類については、実例をあげながら理解します。 ○財政問題については、テーマ3の内容とも関連させて、問題の解決の方向性について考えます。 ○日本の社会保障制度の四つの柱については、さまざまな生活場面を想定して具体的に理解できるようにします。	【知識・技能】 ・経済活動の意義、経済循環、市場経済のしくみと政府の役割、国民所得と経済成長、金融のしくみと働き、中央銀行の役割と金融環境の変化、財政の働きと課題、社会保障の考え方と課題について理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・経済活動の意義、経済循環、市場経済のしくみと政府の役割、国民所得と経済成長、金融のしくみと働き、中央銀行の役割と金融環境の変化、財政の働きと課題、社会保障の考え方と課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・経済活動の意義、経済循環、市場経済のしくみと政府の役割、国民所得と経済成長、金融のしくみと働き、中央銀行の役割と金融環境の変化、財政の働きと課題、社会保障の考え方と課題について、主体的に追究している。	○	○	○	12

私たちの職業生活 ○資本主義社会における労働契約、労働者の権利と労働三法、雇用環境の変化と現代の労働問題などについて、実際の職業や労働のあり方とのかわりも含めて理解する。 ○現代社会における職業の特性の理解の上に、職業選択を自らの課題として考察する。また、労働と雇用にかかわる諸問題について考察する。	○産業構造の高度化や技術革新の進展が職業や仕事にどのような影響を及ぼすのか考えます。 ○職業生活において何を大切にしたいか、理由も含めて考えます。 ○職業については、社会生活における意義や役割、産業とのかかわりなどの視点から理解します。 ○労働市場における労働力の需給調整については、有効求人倍率などを参考にして理解します。 ○自分の抱えている職業観とその職業が必要とする能力との関連について考えます。 ○自分のこれまでの学習や経験をとおして形成してきたキャリアが、今後の職業とどのように結びつくか考えます。 ○「過労死」「ブラック企業」などについては、関係する報道や記事などから、具体性を持って理解します。 ○労働時間のあり方は、ワーク・ライフ・バランスの問題であることについて考察します。 ○労働関係法が、どのように労働者の権利の保護に寄与しているのか、具体的な事例を取り上げて理解します。 ○労働基準法に定める労働条件の最低基準については、具体的に理解します。 ○現代のさまざまな労働問題や労働環境の改善については、報道や関係の記事などをとおして、より具体的に理解します。	【知識・技能】 ・働くことの意義、産業社会の発達と職業の変化、労働市場の役割、職業選択のポイント、多様化するキャリアの選択とキャリア形成の課題、資本主義社会における労働契約、労働者の権利と労働三法、雇用環境の変化と現代の労働問題などについて、理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・働くことの意義、産業社会の発達と職業の変化、労働市場の役割、職業選択のポイント、多様化するキャリアの選択とキャリア形成の課題、資本主義社会における労働契約、労働者の権利と労働三法、雇用環境の変化と現代の労働問題などについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・働くことの意義、産業社会の発達と職業の変化、労働市場の役割、職業選択のポイント、多様化するキャリアの選択とキャリア形成の課題、資本主義社会における労働契約、労働者の権利と労働三法、雇用環境の変化と現代の労働問題などについて、主体的に追究している。	○	○	○	6
国際社会のなかで生きる私たち ○国際社会の成り立ち、国際連合の役割、日本の平和主義と冷戦、冷戦後の日本、現代の紛争とその影響、国際平和に向けた課題、貿易のしくみ、国際金融のしくみと動向、グローバル化と国際経済、国際経済の諸課題について、実際の国際社会の事象とも関連させながら理解する。 ○国際政治、国際経済にかかわる諸課題について多面的・多角的に考察する。	○漁業資源は、鉱物資源とは異なり、海洋という“共有地”における資源であることに気付きます。 ○“共有地の悲劇”の考え方を参考にします。 ○国際法は、国内法と比較しながらその特色について理解します。 ○国家間のさまざまな問題や国際法については、具体例をとおして理解します。 ○国際連合の安全保障への取り組みについては、実際の国際紛争の例を資料をとおして理解します。 ○国際連合の機関の活動が、世界の多くの人々の生活と密接にかかわっている点に気付きます。 ○安全保障のジレンマについて、すでに学習した「囚人のジレンマ」を参考に理解します。 ○敵対している国家間の相互理解や信頼醸成には、関係の国々や国連などを通じた外交が重要であることに気付きます。	【知識・技能】 ・国際社会の成り立ち、国際連合の役割、日本の平和主義と冷戦、冷戦後の日本、現代の紛争とその影響、国際平和に向けた課題、貿易のしくみ、国際金融のしくみと動向、グローバル化と国際経済、国際経済の諸課題について理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・国際社会の成り立ち、国際連合の役割、日本の平和主義と冷戦、冷戦後の日本、現代の紛争とその影響、国際平和に向けた課題、貿易のしくみ、国際金融のしくみと動向、グローバル化と国際経済、国際経済の諸課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・国際社会の成り立ち、国際連合の役割、日本の平和主義と冷戦、冷戦後の日本、現代の紛争とその影響、国際平和に向けた課題、貿易のしくみ、国際金融のしくみと動向、グローバル化と国際経済、国際経済の諸課題について、主体的に追究している。				

